

☆待降節第1主日(11月29日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります

第一朗読(イザヤの預言 63章16-17,19節 64章2-7節)

主よ、あなたはわたしたちの父です。

「わたしたちの贖い主」これは永遠の昔からあなたの御名です。

なにゆえ主よ、あなたはわたしたちをあなたの道から迷い出させ

わたしたちの心をかたくなにして

あなたを畏れないようにされるのですか。

立ち帰ってください、あなたの僕たちのために

あなたの嗣業である部族のために。

どうか、天を裂いて降ってください。御前に山々が揺れ動くように。

あなたが降られれば、あなたの御前に山々は揺れ動く。

あなたを待つ者に計らってくださる方は

神よ、あなたのほかにはありません。

昔から、ほかに聞いた者も耳にした者も目に見た者もありません。

喜んで正しいことを行い

あなたの道に従って、あなたを心に留める者を

あなたは迎えてくださいます。

あなたは憤られました、わたしたちが罪を犯したからです。

しかし、あなたの御業によって、わたしたちはとこしえに救われます。

わたしたちは皆、汚れた者となり

正しい業もすべて汚れた着物のようになった。

わたしたちは皆、枯れ葉のようになり

わたしたちの悪は風のようにわたしたちを運び去った。

あなたの御名を呼ぶ者はなくなり

奮い立ってあなたにすがろうとする者もない。

あなたはわたしたちから御顔を隠し

わたしたちの悪のゆえに、力を奪われた。

しかし、主よ、あなたは我らの父。

わたしたちは粘土、あなたは陶工

わたしたちは皆、あなたの御手の業。

第二朗読（使徒パウロのコリントの教会への手紙Ⅰ 1章3～9節）

皆さん、わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

わたしは、あなたがたがキリスト・イエスによって神の恵みを受けたことについて、いつもわたしの神に感謝しています。あなたがたはキリストに結ばれ、あらゆる言葉、あらゆる知識において、すべての点で豊かにされています。こうして、キリストについての証しがあなたがたの間で確かなものとなったので、その結果、あなたがたは賜物に何一つ欠けるところがなく、わたしたちの主イエス・キリストの現れを待ち望んでいます。主も最後まであなたがたをしっかり支えて、わたしたちの主イエス・キリストの日に、非のうちどころのない者にしてください。神は真実な方です。この神によって、あなたがたは神の子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです。

福音朗読（マルコによる福音書 13章 33～37節）

気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたがたには分からないからである。それは、ちょうど、家を後に旅に出る人が、僕たちに仕事を割り当てて責任を持たせ、門番には目を覚ましているようにと、言いつけておくようなものだ。

だから、目を覚ましていなさい。いつ家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、鶏の鳴くころか、明け方か、あなたがたには分からないからである。主人が突然帰って来て、あなたがたが眠っているのを見つけるかもしれない。あなたがたに言うことは、すべての人に言うのだ。目を覚ましていなさい。

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

新型コロナ感染症が急増しています。皆様お変わりありませんか。徐々にコロナの感染が身近になりつつあります。心配であればどうぞミサへの参加はお休みください。また主日ミサの公開中止の指示がない限り主日ミサはありますのでご安心ください。

さて、今日から新たな一年の待降節が始まりました。昔であればこの疫病（感染症）から救ってくれる救い主を待ち望んでいたことでしょうか、それは体のことで、本当は体も含めて正しい生き方を支えてくださる方イエス・キリストを待ち望む心を持つことが大切なのです。今の私たちは情報が多すぎて、情報の海に溺れてしまっています。もっとシンプルに自分の状態を自分で考えることが重要な気がします。神の声を私は聞いているのか神と私の間に他の雑音が入り込んではいないか。今日の朗読を聞きながら考えてみましょう。

第一朗読(イザヤの預言 63章16-17,19節 64章2-7節)

主に対しイスラエルの民は「主は父であり、私たちの贖い主」と呼んでいます。これが主の本当の呼び名なのだ。主の道に従わず、罪を犯し続ける民ですが、「どうか、天を裂いて下ってください」と神に叫びをあげています。今まで主である神は預言者たちを通してみ言葉を告げられましたが、もうそれでは間に合わないと感じたのか、「天を裂いて降ってください」と訴えているのです。私たちのところに主である神が来てほしいと。

第二朗読(使徒パウロのコリントの教会への手紙Ⅰ 1章3～9節)

この手紙では私たちの間に来られたイエス・キリストによって恵みと平和が与えられ、私たちは感謝に満たされているとパウロは言っています。第一朗読のイスラエルの民の状況と比較してみると、神を信じることに於いて安心感があるように思えます。ですからイエスが来られたことはとても大きな力になっていることがわかります。そして今は、イエス・キリストは天に昇られて再び来ら

れるまで確かな希望を持って待ち続けることができるとパウロは述べているのです。「神は真実な方です」と言っています。私たちが欺かれることのない誠実、真実な方であるということです。

福音朗読 (マルコよる福音書 13章 34～37節)

今年の典礼歴はB年に当たります。それで福音はマルコ福音がメインに読まれます。待降節第一主日は「気をつけて、目を覚ましていなさい」との呼びかけで始まります。イザヤ預言者は「天を裂いて降ってください」と神に懇願し、神はその声に応えられたのです。そしてまた再びみ言葉であるキリストが再臨されるのを「気をつけて、目を覚ましているように」とイエスは言われるのです。目を覚ましてとは、油断しないようにということです。愚かな乙女たちは油断していたのです。油を切らしてしまったのです。自分の務めを意識しているようにということです。私たち一人一人の務めは違います。それなのに私たちは自分の務めに目を配らず、他人の務めばかり気にしているのではないのでしょうか。「あの人はこうした、ああしたと」。イエスの誕生の時、羊飼いたちは寝ずの番をして羊たちを守っていました。そこに天使が現れたのです。東の国の博士たちも夜空を調べていて、不思議な星を見つけたのです。私たちの救いというものは私たちの務めとかけ離れたところにあるのではないのです。私に注がれる神からの恵みは私の日ごろの務めに注がれるのです。遠いところや他の人のところにあるではありません。自分の務めを辛抱強く果たしましょう。

- ・ クリスマスのミサは、24日の夕方18:00と20:00、25日の9時から行われます。事前登録制の方針ですので、手続きをお願いします。詳細はHP上の「ミサの時間」をご覧ください。
- ・ ゆるしの秘跡を希望される方のために13日(日)9:00から阿部神父様が来てくださいます。また、私、野口神父でよければお電話くだされば対応いたします。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光